

事業評価シート

番号 0660080 - 001

【1.基本情報】

事業名	文化財説明板設置・修繕事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和38 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	岐阜市内の文化財及び歴史的な場所についての周知と認識の高揚を図り、まちづくり、人づくりに活用する。				
事業の内容	岐阜市の文化財及び歴史的なゆかりのある場所について、広く一般に周知するため、説明板及び案内標識等の設置を行う。				
事業の対象	何を	文化財説明板、文化財案内標識、歴史案内標識			
	誰に (対象者・対象者数)	一般市民、その他岐阜市への来訪者			
	どのくらい (具体的 数値で)	設置可能指定文化財で未設置説明板(41件)、新指定文化財のうち、2基			
令和元年度 (実施内容)	新指定された市史跡「長山城跡」の説明板を設置した。また、「織田塚」「御蘭の榎」などの板面貼替えを実施した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	476	15	476	15	850	25
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	476	15	476	15	850	25

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		457	237	445
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	工事負担	203	137	214
	修繕料	254	100	231
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		457	237	445

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	933	713	1,295

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	933	713	1,295

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	来訪市民及び文化財所有者	来訪市民及び文化財所有者	来訪市民及び文化財所有者
受益者数	410,000	410,000	410,000
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	2	2	3

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	新規設置数	単位	基
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2	2	2
実績値	1	2	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	-	単位	-
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	<p>現地を訪れた全ての人に当該文化財等の由来や歴史的意義を分かりやすく提供するための手段として必要である。</p> <p>文化財普及啓発事業は市教育委員会が行う事務として法令で規定されている。</p>
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	<p>外国語表記も含めて表現や視覚効果等を考慮して設置しており、身近に歴史的価値を知っていただく手段として有効である。</p> <p>設置・維持管理費用を確保する方策として、説明板への広告掲載などの検討も今後必要と考えている。</p>
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	<p>本市に所在する文化財や歴史的に重要な意味を有する施設などの情報を市民や来街者に分かりやすく提供する手段として非常に効果が大きい。</p>
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	<p>市民や来街者が等しく受益するものであり、公平である。</p>
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	<p>既設の説明板は老朽化が進み、状況に応じて逐次改修や更新をしていく必要がある。また、文化財の新規指定により説明板新規設置対象を毎年度生じることから、状況に応じた計画的な設置・更新等を進めていく必要がある。</p> <p>併せて、外国語表記については、外国の方がすぐに理解できる高度な表記(翻訳)が求められており、今後、翻訳方法について費用対効果を鑑みながら再検討していく必要がある。</p>

事業評価シート

番号 0660080 - 002

【1.基本情報】

事業名	元町1丁目織田塚保存会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	元町1丁目織田塚保存会
実施期間	昭和32 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	織田信長公の美濃進出の過程を伝える岐阜市史跡「織田塚」の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。	
事業の内容	元町1丁目織田塚保存会に対する運営費補助。会の主な活動内容は、市史跡「織田塚」(市所有地)の除草、樹木の剪定、清掃、献花等。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	元町1丁目織田塚保存会
	どのくらい (具体的 数値で)	団体総事業費の約50%
令和元年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	32	1	32	1	34	1
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	32	1	32	1	34	1

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		10	10	10
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	10	10	10
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		10	10	10

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	42	42	44

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	42	42	44

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	8	7	7
受益者負担額(千円)	8	8	7
受益者負担率(%)	19.2%	19.2%	15.9%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	5,213	5,957	6,286

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		千円
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	10	10	10
実績値	10	10	10

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	-		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	地域住民を中心に、市民が守り受け継いできた市文化財の市民参加による保護活動である。 文化財を市民とともに守り伝える事業として、市が支援すべき市民活動である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	史跡は市有地であり本来は市で管理すべきところを、市民自身で管理いただいているものであり、市の支援手段として有為である。 市民が主体的に管理いただいているものであり、市民協働を具現化した形態である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	市民の歴史的財産として、市民主体で守り、受け継がれている活動への支援方策として非常に有効である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	当事業を通じて活動が継続することで、地域の人材育成や活性化などに寄与するものであり、特定者に利益を供与するものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	地元保存会の会員が減少しており、地元による保存活動存続について検討する時期に入っている。 将来的には、文化財保護事業全体の中で、公平性の確保に留意して事業の方向性を整理していく必要がある。

事業評価シート

番号 0660080 - 003

【1.基本情報】

事業名	中将姫請願桜保存会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	中将姫請願桜保存会
実施期間	昭和62 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	国指定天然記念物「中将姫誓願ザクラ」の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。	
事業の内容	中将姫誓願桜保存会に対する運営費補助。会の主な活動内容は、総会・観桜会の開催、開花期における道案内の設置、物販の実施、役員会の開催など。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	中将姫請願桜保存会
	どのくらい (具体的 数値で)	団体補助事業費の約6%
令和元年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	32	1	32	1	34	1
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	32	1	32	1	34	1

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		40	40	40
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	40	40	40
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		40	40	40

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	72	72	74

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	72	72	74

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	567	527	520
受益者負担額(千円)	567	527	520
受益者負担率(%)	790.8%	735.0%	702.7%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	126	136	142

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	40	40	40
実績値	40	40	40

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	-		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民参加による文化財の保護活動であり、地域ニーズも高い。 文化財保存に関する取組みを市民参加により行っている団体への助成であり必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な文化財保存・継承活動に寄与するものであり、有効である。 国・県の補助メニューに適合するものがあれば適宜申請することも今後検討していく必要がある
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貴重な文化財保存・継承活動に寄与するものであり、中将姫誓願桜の名は県外にも知られ、桜の開花時期には、各地から毎年多くの来訪者があることから、非常に有効である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市の文化財の保存・継承に資する事業であり、特定者に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	貴重な文化財保存・継承活動に寄与するものであり、中将姫誓願桜の名は県外にも知られ、桜の開花時期には、各地から毎年多くの来訪者があることから、非常に有効である。

事業評価シート

番号 0660080 - 004

【1.基本情報】

事業名	中山道加納宿文化保存会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	中山道加納宿文化保存会
実施期間	昭和54年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	旧中山道とその宿場町であった加納宿にある歴史資産の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。	
事業の内容	中山道加納宿文化保存会に対する運営費補助。会の主な活動内容は、会誌「中山道加納宿」の発行、歴史講演会、歴史講座の開催、イベント時におけるPR活動、役員会の開催など。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	中山道加納宿保存会
	どのくらい (具体的 数値で)	団体総事業費の約7%
令和元年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	32	1	32	1	34	1
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	32	1	32	1	34	1

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		80	80	80
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	80	80	80
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		80	80	80

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	112	112	114

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	112	112	114

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	314	278	249
受益者負担額(千円)	314	278	249
受益者負担率(%)	281.1%	248.9%	218.4%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	356	402	458

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	80	80	80
実績値	80	80	80

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	-		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	市民参加による歴史資産や文化財の保存、継承活動であり、地域ニーズも高い 文化財保存に関する取組みを市民参加により行っている団体への助成であり必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な歴史資産や文化財の保存・継承活動に寄与するものであり、有効である。 保存会活動の中で、国・県の補助メニューに適合するものがあれば適宜申請を今後検討する。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貴重な文化財保存・継承活動に寄与するものであり、地域の活性化やまちづくり振興においても有効と見込まれる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市の歴史資産の保存・継承に資する事業であり、特定個人に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	将来的には、文化財保護事業全体の中で、公平性の確保に留意して事業の方向性を整理していく必要がある。

事業評価シート

番号 | 0660080 | 005

【1.基本情報】

事業名	琴塚顕彰協会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	琴塚顕彰協会
実施期間	昭和25年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	国史跡「琴塚古墳」の保存と顕彰を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。	
事業の内容	琴塚顕彰協会に対する運営費補助。会の主な活動内容は、琴塚古墳の除草・清掃・見廻り、琴塚顕彰祭の開催、見学者(小学校遠足・個人訪問)への説明、役員会の開催など。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	琴塚顕彰協会
	どのくらい (具体的 数値で)	団体総事業費の約40%
令和元年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	32	1	32	1	34	1
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	32	1	32	1	34	1

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		40	40	40
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	40	40	40
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		40	40	40

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	72	72	74

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	72	72	74

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	会員	会員	会員
受益者数	316	316	331
受益者負担額(千円)	30	30	30
受益者負担率(%)	41.8%	41.8%	40.5%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	227	227	224

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		単位
	平成29年度	平成30年度	千円
目標値	40	40	40
実績値	40	40	40

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	-		単位
	平成29年度	平成30年度	千円
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民参加による文化財の保護活動であり、地域ニーズも高い。 文化財保存に関する取組みを市民参加により行っている団体への助成であり必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	史跡は公有地であり、本来は市で管理すべきところの一部を市民が協力している。 国・県の補助メニューに適合するものがあれば適宜申請することも今後検討していく必要がある
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貴重な史跡の保存・継承に寄与するものであり、地域の活性化やまちづくり振興においても有効と見込まれる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市の歴史資産の保存・継承に資する事業であり、特定個人に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	将来的には、文化財保護事業全体の中で、公平性の確保に留意して事業の方向性を整理していく必要がある。

事業評価シート

番号 0660080 - 006

【1.基本情報】

事業名	高桑太鼓保存会運営補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	高桑太鼓保存会
実施期間	昭和63 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市文化財関連団体補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	柳津地域に古くから伝わる郷土伝統芸能で市指定無形民俗文化財の高桑太鼓を伝承するため、後継者を育成するとともに、地域活動等に参加し普及・啓発を図り、地域社会の活性化に貢献する。	
事業の内容	柳津地域に古くから伝わる郷土伝統芸能である市指定無形民俗文化財の高桑太鼓の伝承のため、後継者を育成するとともに、地域活動等に参加し普及・啓発を図り、地域社会の活性化に貢献する事業に対し補助金を助成する。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	高桑太鼓保存会
	どのくらい (具体的 数値で)	総事業費の約20%
令和元年度 (実施内容)	会の活動に対し、補助金を交付した	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	32	1	32	1	34	1
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	32	1	32	1	34	1

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		30	30	30
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	30	30	30
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		30	30	30

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	62	62	64

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	62	62	64

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	42	42	42
受益者負担額(千円)	0	10	3
受益者負担率(%)	0.0%	16.2%	4.7%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,469	1,469	1,524

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		千円
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	30	30	30
実績値	30	30	30

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	-		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市無形民俗文化財の伝承活動である。 本市の歴史資産である文化財を維持するために必要な経費である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な歴史資産や文化財の保存・継承活動に寄与するものであり、有効である。 国、県、民間の補助メニューに適合するものがあれば適宜活用していく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貴重な文化財保存・継承活動に寄与するものであり、地域の活性化やまちづくり振興においても有効と見込まれる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市の歴史資産の保存・継承に資する事業であり、特定個人に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	将来的には、文化財保護事業全体の中で、公平性の確保に留意して事業の方向性を整理していく必要がある。

事業評価シート

番号 0660080 - 007

【1.基本情報】

事業名	長良川流域の文化的景観保存調査事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	良好な都市空間づくりの推進		政策コード	6 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成20年度～	年度	根拠法令 関連計画※	文化財保護法、景観計画 歴史的風致維持向上計画	

【2.事業概要】

事業の目的	長良川鵜飼をはじめとする豊かな漁業文化の舞台となってきた流域や道三・信長の都市計画を伝える旧城下町の文化的景観の価値を明らかにし、良好な景観の継承と望ましい景観形成の仕組みを作るため。	
事業の内容	①文化的景観保存調査 ②文化的景観保存計画の策定 ③文化的景観選定の申出・選定 ④修理・整備・復旧防災等の事業。	
事業の対象	何を	国重要文化的景観選定による文化財を活かしたまちづくりの推進
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民
	どのくらい (具体的 数値で)	重要文化的景観による文化財として価値づけ、国の支援
令和元年度 (実施内容)	前年度に着手し、今後10年の年次計画を盛り込んだ整備計画を策定した。 また、近年の火災等による文化財建造物の重大な被災状況を鑑み、重要な構成要素である正法寺の大仏殿及び岐阜大仏を併せ、3次元測量を実施した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	6,340	200	6,340	200	6,800	200
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	6,340	200	6,340	200	6,800	200

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		5,856	24,792	7,004
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託	5,011	6,687	6,011
	報償	118	155	327
	旅費	400	514	540
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		5,856	24,792	7,004

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	12,196	31,132	13,804

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	2,801	11,896	2,870
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	2,801	11,896	2,870

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	9,395	19,236	10,934

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	410,000	410,000	410,000
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	23	47	27

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	長良川流域の文化的景観検討委員会開催数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2	2	2
実績値	2	1	2

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	伝統的家屋等詳細調査件数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	1	1	1
実績値	1	1	1

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本市の歴史・観光資源であり、市民共通の財産として最も重要な金華山・長良川流域の景観形成や継承を図る上で必要不可欠である。 景観を守っていくためには行政だけでなく、そこに住む住民の理解も必要であり、事業推進にあたり常に市民と協働で実施することを意識していく必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	将来的な本市の歴史的価値や観光資源としての価値向上に大きく寄与するものであり、効果は非常に大きい。 周辺住民の理解も含めて、事業推進にあたっては市民協働を意識し推進していく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	日本遺産の認定にあたって、文化的景観で得られた成果が大きく貢献した。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	当事業の成果は、本市の財産として市民が等しく享受するものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	景観計画や平成25年4月に認定された歴史的風致維持向上計画等の関係法令や計画との整合性、庁内関係課などとの調整を図りながら事業を推進する。

事業評価シート

番号 0660080 - 008

【1.基本情報】

事業名	原三溪顕彰事業費補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	市民参画と市民協働によるまちづくりの推進		政策コード	4 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	補助対象団体
実施期間	平成24年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市郷土の偉人顕彰事業補助金交付要綱 岐阜市補助金等交付規則	

【2.事業概要】

事業の目的	原三溪翁の遺徳を顕彰し、柳津地域周辺のまちづくりのほか、市民の地域に対する理解と郷土愛の醸成に寄与することを目的とする。	
事業の内容	原三溪の業績の顕彰活動を行う。 市民を対象とした原三溪にかかわる見学会や研修会を行う。 関係機関、団体と協力して原三溪翁顕彰に関わる諸事業を行う。	
事業の対象	何を	市補助金
	誰に (対象者・対象者数)	補助対象団体
	どのくらい (具体的 数値で)	総事業費の20%
令和元年度 (実施内容)	市補助金等を活用し、例年どおりの講演会や研修会を実施するとともに、三溪ゆかりの場所への説明板設置やそれらを巡るマップの作成を行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	63	2	63	2	68	2
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	63	2	63	2	68	2

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		500	500	80
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	500	500	80
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		500	500	80

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	563	563	148

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	563	563	148

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	会員	会員	会員
受益者数	76	76	89
受益者負担額(千円)	606	2,638	1,906
受益者負担率(%)	107.6%	468.2%	1287.8%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	7,413	7,413	2,638

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金助成		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	500	500	80
実績値	500	500	80

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	-		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民参加による郷土の偉人の普及啓発活動である 本市の歴史的偉人の顕彰に関する取組みを市民参加により行っている団体への助成であり必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	近代日本の発展に貢献した郷土の偉人の周知啓発に寄与するものであり、有効である。 市民主体の活動に対する助成であり、市民協働の取組みを支援するものである。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	地元の小中学校の総合学習等にも組み込まれ各校で学習内容の充実が進むなど、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	郷土の偉人の顕彰事業は、市民が地域に対する理解を深め、郷土愛を醸成する基盤となるものであり、また、市民との協働のまちづくりと文化の向上に資するもので、特定個人に受益させるものではない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	文化財保存活用団体などの公平性の確保に留意しつつ、顕彰事業の方向性を整理していく必要がある。

事業評価シート

番号 0660080 - 009

【1.基本情報】

事業名	加納城整備事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成12年度～	年度	根拠法令 関連計画※	文化財保護法	

【2.事業概要】

事業の目的	史跡や文化財を活かしたまちづくりを推進するために、岐阜市の歴史遺産を整備し、適切な維持管理と活用を行う必要がある。	
事業の内容	①加納城跡整備基本構想、史料調査、保存活用計画 ②本丸内発掘調査、調査報告書作成 ③本丸内民地買い上げ	
事業の対象	何を	加納城跡の整備による「歴史を活かしたまちづくり」の推進
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民
	どのくらい (具体的 数値で)	約40万市民にサービスを提供
令和元年度 (実施内容)	本丸の石垣測量調査	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	1,585	50	1,585	50	1,700	50
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	1,585	50	1,585	50	1,700	50

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		3,758	4,455	3,605
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託料	3,758	3,597	3,605
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		3,758	4,455	3,605

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	5,343	6,040	5,305

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	1,879	1,654	1,714
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	1,879	1,654	1,714

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	3,464	4,386	3,591

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民、観光客	岐阜市民、観光客	岐阜市民、観光客
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	16	20	16

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	調査面積	単位	m ²
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	215	200	200
実績値	215	219	264

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	岐阜市民であることに誇りを感じる割合	単位	%
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	50	50	52
実績値	48.0	52.9	51.6

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	岐阜市の貴重な歴史文化資源の一つとして全容を明らかにし、今後の保存及び活用に資するとともに、本市の独自性を全国にアピールしていく上で必要不可欠である。 当該史跡の管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜城に並ぶ歴史資産として、将来的な歴史文化的価値の明確化や新たな観光資源としての活用につながるものであり、非常に有為である。 史跡の調査、整備、活用については管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	石垣の測量により、現状把握及び将来の史跡整備に必要な基礎資料が得られている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	本市の歴史遺産として市民が等しく受益するものであり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	国史跡加納城跡として今後保存管理計画や整備計画等を策定し、体系的な保存・活用の推進が求められている。しかし、文化財保護行政においては、他に解決すべき課題が多く存在しており、全体の進捗状況を見ながらバランスよく事業を進めていく必要がある。維持管理については、関係部局と協議して効率のよい体制を構築していく。

事業評価シート

番号 0660080 010

【1.基本情報】

事業名	史跡岐阜城跡整備事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	委託(出資団体)	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成26年度～	年度	根拠法令 関連計画※	文化財保護法	

【2.事業概要】

事業の目的	国史跡岐阜城跡の調査や整備、活用を行い、岐阜市の観光振興、地域活性化に資する。史跡の管理団体として、適切な維持管理と整備活用を行う必要がある。				
事業の内容	山麓居館の整備及び山上部の発掘調査。整備計画等の策定と看板設置・修繕。石垣等、史跡の維持管理				
事業の対象	何を	史跡岐阜城跡の保存活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	約40万市民にサービスを提供			
令和元年度 (実施内容)	岐阜城跡山上部発掘調査を実施。また、山上部看板の修繕、樹木の剪定を行った。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	22,190	700	22,190	700	23,800	700
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	22,190	700	22,190	700	23,800	700

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		41,063	52,688	41,608
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託料	39,147	33,758	38,301
	修繕料	612	229	428
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		41,063	52,688	41,608

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	63,253	74,878	65,408

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	6,293	2,639	2,299
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	6,293	2,639	2,299

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	56,960	72,239	63,109

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民、観光客	岐阜市民、観光客	岐阜市民、観光客
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	259	328	287

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	委員会会議回数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2	2	2
実績値	2	1	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	発掘調査現地公開参加者数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	300	400	1,200
実績値	350	1,120	3,500

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民や歴史ファンの関心度が高く、全国に岐阜市をPRするために欠かせない。 維持管理については金華山国有林の管理者である林野庁も実施しているが、史跡の調査、整備、活用については管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	新聞・テレビ等の報道による宣伝効果は非常に高い。 史跡の管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	岐阜市の歴史文化を明らかにし、都市の独自性を全国にアピールしていく上で欠かせない。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	当事業による成果は、本市の歴史遺産として市民が等しく受益するものであり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	岐阜市を全国にPRするうえで欠かせない事業と考える。引き続き山上部の発掘調査を実施するとともに、保存活用計画の策定、整備基本計画の見直しを行う。山上部の発掘調査における市民・観光客の関心は非常に高い。マスコミ等への情報提供、広報広聴課等との連携により情報発信の質を高めていく。

事業評価シート

番号 0660080 - 011

【1.基本情報】

事業名	信長学フォーラム				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	生涯を通じたいきがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成20年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	発掘調査事業及び史跡整備等のハード事業に対するソフト事業として、全国の信長公ファンを対象にシンポジウムを実施し、道三公・信長公のまち岐阜としての情報発信を行う。				
事業の内容	シンポジウム『信長学フォーラム』開催				
事業の対象	何を	信長公居館発掘調査・活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	約40万市民にサービスを提供			
令和元年度 (実施内容)	道三学フォーラム(第13回信長学フォーラム)				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,536	80	2,536	80	2,720	80
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	2,536	80	2,536	80	2,720	80

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		5,386	2,580	2,790
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報償費	1,408	1,051	850
	印刷製本費	2,629	0	326
	委託料	1,047	1,350	1,386
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		5,386	2,580	2,790

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	7,922	5,116	5,510

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	7,922	5,116	5,510

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン
受益者数	600	600	600
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	13,203	8,527	9,183

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	参加者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	500	500	500
実績値	523	550	509

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	満足度(参加者アンケート)	単位	%
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	95	95	95
実績値	87	93	80

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	毎回定員を超える申し込みがあり、ニーズが高い。 道三公・信長公のまち岐阜をPRする上で直接実施する必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜市の独自性を全国にアピールする効果が高い。 行政だけでなく、民間団体と協働して、道三公・信長公のまち岐阜をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	発掘事業とあわせて、本市の歴史的成り立ちを市民が学ぶ機会として、また、都市の独自性を全国にアピールしていく上で有為である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	信長公の事績を中心に本市の歴史資産の重要性を広く市民と共有するもので、市民が公平に受益するものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	「信長学」、「道三公・信長公のまち岐阜」を全国にPRするために、行政だけでなく民間団体と協働して盛り上げていく必要がある。 各課に協力を依頼していたイベント当日の受付・誘導業務を業務委託するなど、職員の負担軽減と業務効率化を進める。 大河ドラマと連動して開催するなど、内容面のブラッシュアップを行っていく。

事業評価シート

番号 0660080 - 012

【1.基本情報】

事業名	信長塾				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	生涯を通じたいきがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成21年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	発掘調査事業及び史跡整備等のハード事業に対するソフト事業として、信長公とその時代に関する歴史講座を開催する。				
事業の内容	講座「信長塾」開催				
事業の対象	何を	信長公居館発掘調査・活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	約40万市民にサービスを提供			
令和元年度 (実施内容)	令和元年度信長塾(全5回)を開催した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	634	20	634	20	680	20
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	634	20	634	20	680	20

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		222	255	239
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報償費	211	250	180
	旅費	11	5	0
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		222	255	239

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	856	889	919

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	856	889	919

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン
受益者数	200	200	200
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	4,280	4,445	4,595

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	参加者数(延べ人数)	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	900	900	900
実績値	863	810	853

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	満足度(参加者アンケート)	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	90	90	90
実績値	89	87	90

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	<p>毎回定員を超える申し込みがあり、ニーズは非常に高い。</p> <p>信長公を通じた本市の歴史的成り立ちや事績を発掘調査成果なども踏まえて市民と共有し、さらに、道三公・信長公のまち岐阜として全国に発信し、本市の観光振興にも資するための事業として市が直接実施する必要がある。</p>
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	<p>信長公を核とする戦国期における本市の歴史的重要性や独自性を学び、発信する機会として効果が高い。</p> <p>行政だけでなく、民間団体と協働して「道三公・信長公のまち岐阜」をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。</p>
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	<p>本市における信長公の歴史的重要性を広く市民が学ぶとともに、道三公・信長公のまち岐阜としての本市の独自性をアピールすることに寄与している。</p>
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	<p>本市の歴史遺産を学ぶ機会として市民が等しく受益するものであり適正である。</p>
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	<p>「信長公」「道三公・信長公のまち岐阜」を全国にPRするために、講座を通じてふるさとの歴史を市民が学び、来訪者に還元できるように人材を育成する必要がある。</p> <p>毎年定員を上回る申込がある人気講座であるため、低予算で質の高い講師の発掘に努め、より高い満足度となるようにしていく。</p>

事業評価シート

番号 0660080 013

【1.基本情報】

事業名	鵜飼の総合的調査事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成17年度～	年度	根拠法令 関連計画※	ユネスコ無形文化遺産保護条約、文化財保護法等	

【2.事業概要】

事業の目的	「長良川鵜飼世界遺産化戦略プログラム」(平成27年度策定)に基づき、長良川鵜飼のユネスコ無形文化遺産登録を目指す取組を通じて、地域資源を生かした本物志向の観光まちづくりを推進する。	
事業の内容	無形文化遺産申請準備、鵜飼文化魅力発信、鵜飼文化保存・継承、鵜飼習俗総合調査を一体的に取り組み、無形文化遺産登録の早期実現を目指す。特に、鵜飼習俗総合調査については、無形文化遺産登録にふさわしい価値(「文化の多様性」、「人間の創造性」等)を証明するために、多角的な視点から学術調査を推進する。	
事業の対象	何を	鵜飼文化の価値の顕在化とそれを活かした観光まちづくりの推進
	誰に (対象者・対象者数)	鵜飼を支えるコミュニティ(岐阜市民 約40万人9千人、鵜匠家 6軒、職人 数名(近年減少)、観光業関係者多数、地方自治体 関市、日立市等、国機関 文化庁、宮内庁等、学識経験者 多数、NPO 多数)
	どのくらい (具体的 数値で)	無形文化遺産登録による鵜飼文化のブランディング、岐阜市民の誇りと愛着の醸成
令和元年度 (実施内容)	PR映像制作、PRリーフレット多言語版の作成、小学生向け冊子作成、船頭体験教室開催、他地域の鵜飼との比較調査 等	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	6,340	200	6,340	200	6,800	200
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	6,340	200	6,340	200	6,800	200

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		7,916	4,273	5,564
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	旅費	280	779	820
	委託料	5,286	2,323	2,958
	負担金補助及び交付金	0	127	698
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		7,916	4,273	5,564

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	14,256	10,613	12,364

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他	11	147	1,555
計(F)	11	147	1,555

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	14,245	10,466	10,809

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民、鶺鴒観覧者等	岐阜市民、鶺鴒観覧者等	岐阜市民、鶺鴒観覧者等
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	65	48	49

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	委員会の開催回数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2	2	2
実績値	1	1	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	「岐阜市の魅力は何か」という質問に対する「鶺鴒」という回答の割合・順位	単位	%・順位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	55.0%・4位	56.0%・4位	58.0%・3位
実績値	55.1%・4位	57.2%・4位	58.0%・4位

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	長良川鶺鴒は市民にとって魅力ある存在であり(R1市民意識調査第4位(58.0%))、さらなるブランディングは社会のニーズに合っている。また、H28に長良川鶺鴒文化応援団が設立され、無形文化遺産登録を目指す市民が増えてきており、ニーズが増している。 無形文化遺産登録を実現するには、鶺鴒匠たち継承者、行政、市民、応援団をはじめとする各種団体など、オール岐阜で取り組む必要がある。その中でも、市がリーダーシップをとり、事業の先導役を担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	長良川鶺鴒は市にとって重要な観光資源であるとともに、1300年以上の歴史と伝統を有する文化遺産である。本物志向の観光まちづくりを推進していく上で、長良川鶺鴒のさらなるブランディングを行い、全国にアピールしていく効果は高い。 鶺鴒文化の確実な保存・継承に直接的な効果をもたらす取組が急務であるが、鶺鴒を支える技術の担い手は県内各地に分布しており、鶺鴒に関連する河川や山林なども複数の市町にまたがるため、広域的な事業展開が求められる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	学術調査の成果を受けて、平成27年3月に「長良川の鶺鴒漁の技術」が国重要無形民俗文化財に指定され、同年4月に「『信長公のおもてなし』が息づく戦国城下町・岐阜」が日本遺産に認定された。その後、鶺鴒観覧船乗客数が平成27年度から3年連続で増加しており、平成29年度には8年ぶりに11万人を超えた(平成30年度・令和元年度は度重なる災害が原因で乗客数が減少)。本事業を継続することで、今後さらなる鶺鴒観覧船乗客数の増加が期待される。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	本市鶺鴒文化の歴史的価値を国内のみならず世界の歴史遺産としての価値づけにつなげようとするものであり、その利益は市民が等しく享受するものである。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善	これまでに積み重ねてきた取組の継続性が求められる一方、無形文化遺産登録を目指すライバルが400件以上存在する中、同じやり方だけでは無形文化遺産登録の早期実現は困難であるのが現状である。令和元年度、「『人と動物の無形文化遺産』の仲間を増やす」、「国際フォーラムを開催して説得力のある国際的な評価を得る」という2つの新戦略を導き出した。今後はこの新戦略を主軸とする事業展開を構築していく必要がある。

事業評価シート

番号 0660080 014

【1.基本情報】

事業名	日本遺産推進事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	文化財保護課		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	その他負担金	実施主体	日本遺産「信長公のおもてなし」 岐阜市推進協議会
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	平成27年度に日本遺産第1号に認定された「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」を全国にPRする。				
事業の内容	情報発信、日本遺産ガイド育成、再現映像作成、日本遺産サミットにおけるPR事業等				
事業の対象	何を	日本遺産による岐阜市の認知度向上、ブランド化、地域の誇りの醸成			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客			
	どのくらい (具体的 数値で)	約40万市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供			
令和元年度 (実施内容)	日本遺産ガイド育成事業、日本遺産サミット・日本遺産PRイベントでのPR、まっぐる増刷を実施した。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	1,268	40	1,268	40	1,360	40
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	1,268	40	1,268	40	1,360	40

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		13,303	1,294	7,014
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	負担金	13,303	1,294	7,014
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		13,303	1,294	7,014

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	14,571	2,562	8,374

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	10,000	0	
県支出金			2,400
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	10,000	0	2,400

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	4,571	2,562	5,974

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民、歴史ファン	岐阜市民、歴史ファン	岐阜市民、歴史ファン
受益者数	40,000	10,000	10,000
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	114	256	597

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	ツアーガイド育成数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	15	15	20
実績値	12	15	30

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	満足度(ツアー参加者アンケート)	単位	%
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	90
実績値	-	-	84

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	国が認定する日本遺産をPRする事業であり、観光誘客にも効果が高い。 民間団体も含めた協議会で実施しているが、文化庁とも連携する必要があり、信長公のまちとして全国に発信し、本市の観光振興にも資するための事業として、市が関与する必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	信長公を活かしたまちづくりや観光誘客を行う上で、効果が高い。 協議会だけでなく、民間団体と協働して「信長公のまち・岐阜」をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	全国に信長公のまちとしての本市の独自性をアピールすることに寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	本市の魅力を来訪者が等しく受益するものであり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善 (統合・縮小含む)	「日本遺産」そのものの知名度を向上させることが必要であり、国や他の認定地域と連携して事業を進める必要がある。 「信長公」「信長公のまち・岐阜」を全国にPRするために、ガイド研修事業等を通じて、人材を育成する必要がある。 日本遺産の補助金は平成29年で終了。今後、事業を進めるために他の補助制度などで財源を確保していく必要がある。